

大分工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	キャリアデザイン
科目基礎情報						
科目番号	R05C427		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	都市・環境工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	(教科書) なし／ (教材) 適宜, 資料を配布する。					
担当教員	一宮 一夫					
到達目標						
(1) 各種講演, 説明会, 見学, ならびに研修旅行等により, 企業等における技術者・研究者等の実務を認識できる。 (報告書等)						
(2) インターンシップの説明会により, 企業学習の目的を理解できる。 また, 報告会を通して, 複数の企業等において実際に行われている企業活動を具体的に理解できる。 (発表および聴講・レポート等)						
(3) SPIの模擬試験を受けることにより, 自己の能力を分析することができる。 (SPI試験および自己分析)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標(1)の評価指標	技術者・研究者等の実務を知り, それをこなすために技術者が備えるべき能力を認識できる。		企業等における技術者・研究者等の実務を認識できる。		企業等における技術者・研究者等の実務について十分に認識できない。	
到達目標(2)の評価指標	企業学習の目的を理解し, 高専での学習の意義を認識できる。 実際に行われている企業活動を知り, 多くの企業が多面的に関わりあっていることを理解できる。		企業学習の目的について理解できる。 企業等において実際に行われている企業活動を具体的に理解できる。		企業学習の目的について理解できない。 実社会で行われている企業活動について具体的に理解できない。	
到達目標(3)の評価指標	SPIの模擬試験を受けることにより, 企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。		SPIの模擬試験を受けることにより, 自己の能力を分析することができる。		SPIの模擬試験を受けたが, 自己の能力を分析することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (A1) 学習・教育目標 (A2) 学習・教育目標 (D2)						
教育方法等						
概要	本科目では, 高専での学習により得た知識が, 企業や大学等でどのように利用・活用されるかを理解し, 自身の将来のありたい姿を明確化できることを目的としている。 また, インターンシップや共同教育等を通して, 企業および企業人としての社会的責任, 社会人として自身が備えるべき能力を認識できるよう自己の研鑽を目指す。 さらに, 卒業後も社会人として継続的に学習し成長することを認識できる思考を養う。 (科目情報) 特になし。					
授業の進め方・方法	本科目は, MCC (モデルコアカリキュラム) のⅧの態度・志向性の到達目標を達成するための授業である。 講話・講演等の聴講, 企業等のインターンシップや現場見学, および演習に出席 (履修) することを前提としており, 各授業内容を通して, 目標とする到達レベルに達し, 未来志向性・キャリアデザインや企業活動理解などの能力を養う。 理解度等については, 報告書の提出および内容で確認する。 (事前学習) 授業計画・方法および週ごとの到達目標の理解に努め, 企業・研究学習, 自己理解, 進路選択等に取り組むこと。					
注意点	(履修上の注意) 各授業内容に出席 (履修) することを前提とし, 以下の注意点について留意すること。 (1) 各授業項目について, 実施することの意義の理解に努めること。 また, それに伴って自己の涵養に努めること。 (2) 実施する際には事前に周知するので, 普段から授業担当教員および所掌の係からの連絡についてTeamsや電子掲示板などを常に確認すること。 (自学上の注意) 自身の理想とする将来像を見据えながら取り組むこと。					
評価						
(評価について) 以下の算定式で評価し, 総合評価が60点以上を合格 (単位修得) とする。 総合評価 = 出席 (履修) 率×0.6 + 報告書・SPI試験 (自己分析) など×0.4 報告書等の提出状況や説明会等の参加状況で評価する。 事情により欠席した者は, 他の方法により評価する場合がある。 (再試験について) 再試験は, 実施しない。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	教務・教育プログラム説明会 (1回目)		教務および教育プログラムについて理解し, 自身の将来を考え, 一年間の学習を計画することができる。	
		2週	インターンシップ説明会		インターンシップ説明会により, 企業学習の目的を理解できる。	
		3週	インターンシップ関係書類作成		インターンシップ関係書類の作成を通じて, 自身の企業学習の目的や履歴を整理できる。	
		4週	インターンシップ報告会		企業学習した内容について相互に報告し, 各企業の社会的役割を理解できる。	
		5週	研修旅行		研修旅行により, 複数企業の技術者や研究者の実務, 業務の工程, 社会的役割について理解することができる。	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	

後期	2ndQ	8週	進路説明会	進路説明会により、自身の将来および進路について具体的に考えることができる。
		9週	SPI試験（1回目）	SPI等の就職試験の模擬試験を受験し、その結果から、自己の能力を分析することができる。
		10週	SPI試験（2回目）	同上
		11週	SPI試験（3回目）	同上
		12週	教務・教育プログラム説明会（2回目）	教務および教育プログラムについて理解し、自身の将来像をイメージした、最終学年の学習計画を立てることができる。
		13週	企業・大学説明会（1回目）	説明会に参加し、情報を収集・分析して、自身の進路選択に役立てることができる。
		14週	企業・大学説明会（2回目）	同上
		15週	企業・大学説明会（3回目）	同上
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前8,前13,前14,前15
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前1,前8,前9,前10,前11,前12
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前1,前9,前10,前11,前12
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前4,前13,前14,前15
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前4,前13,前14,前15
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7

			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前13,前14,前15
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前6,前9,前10,前11,前13,前14,前15
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前13,前14,前15

評価割合

	出席（履修）	報告書・SPI試験（自己分析）など	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	60	40	100